

中国医学名著



鲁

迅

等

出版

校

医方集解

清·汪昂 撰



医方集解

清·汪昂 撰
鲁兆麟 主校
张莉莎 点校

辽宁科学技术出版社
· 沈阳 ·

图书在版编目(CIP)数据

医方集解/(清)汪昂撰;鲁兆麟等点校. —沈阳:辽宁科学技术出版社,1997.8

ISBN 7-5381-2563-9

I. 医… I. ①汪… ②鲁… III. 方书 N.R289.2

中国版本图书馆 CIP 数据核字(97)第 13544 号

辽宁科学技术出版社出版

(沈阳市和平区北一马路 108 号 邮政编码 110001)

建平书刊印刷厂印刷

新华书店北京发行所发行

开本:787×1092 1/16 印张:8 $\frac{3}{4}$ 字数:220,000

1997 年 8 月第 1 版

1997 年 8 月第 1 次印刷

责任编辑:宋纯智

版式设计:郭京

封面设计:王 鹏

印数:1—3,200

定价:9.50 元

中国医学名著 编校委员会

主任 鲁兆麟(北京中医药大学)教授 博士生导师
委员

北京中医药大学	王晓兰	王新佩	石学文	张宝春	张莉莎
	肖诗鹰	陈赞玉	图 娅	高春媛	黄作阵
	韩 平	彭建中	谢路山		

黑龙江中医药大学	张士英	湖北中医学院	傅沛藩
广州中医药大学	邱仕君	湖南中医学院	易法银
河北中医药大学	刘美文	浙江中医学院	倪世美
南京中医药大学	徐荣庆	甘肃中医学院	王道坤
山东中医药大学	张谨庸	天津中医学院	秦玉龙
辽宁中医学院	易同飞	四川中医学院	邓中甲
陕西中医学院	任春荣	长春中医学院	南 征
河南中医学院	袁占盈		

点校说明

《医方集解》二十一卷，为清代汪昂所纂，刊于公元1682年。本书系收集汉唐以降，清代以前众多名医临床常用，并有代表性的方剂汇编而成。

汪昂，字讵庵，明清间安徽休宁县人，寄籍丽水。初业儒，为明代诸生，明亡弃举业，自逸以老。于经史百家靡不殚究，尤嗜岐黄之书。所著之《医方集解》，选方广博而精当，内容丰富而切合实用，引录大量著名医家的论述予以详尽诠释，并将前人不同观点并列兼收，供后学参考之用。正如作者本人所云：“医书浩瀚，泛览为难，……是用裒合诸家，会集众说，由博返约，用便收求，实从前未有之书，亦医林不可不有之书也。”

《医方集解》之最早版本为清代康熙二十一年壬戌刊刻，迄今已三百余年。由于其影响之大，曾多次翻刻再版，印刷梓行，据《全国中医图书联合目录》所载，前后有近80种不同版本。

本次校刊，以同治八年瑞莱山房刻本为底本，以康熙二十一年三槐堂刻本为主校本，以光绪五年扫叶山房刻本及光绪二十二年上海图书集成印书局刊印之《本草医方合编·医方集解》为参校本。为保持古籍原貌，以对校为主，在查对核实各方出处时结合他校法。间或进行本校和理校。对原书中存在的讹误、脱漏、衍文、倒置等一一校正，并以脚码注明改正依据，对原书中的僻字、假借字等，在查核无误的基础上迺予改正，不加注释。凡各本均同，但有疑误又无据可核者，一律不改，只出注说明。另外，原书中引经据典凡见多处，“经曰”所示，涵赅了《内经》与仲景医著的不同经文，未逐一注释，望读者明辨。

由于水平有限，对本书之校勘、句断难免有不妥之处，请广大读者不吝指正。

点校者

一九九四年六月

自序

孔子曰：能近取譬，可谓仁之方也已。夫仁为心性之学，尚不可以无方，况于百家众艺，可以无方而能善此乎？诸艺之中，医为尤重，以其为人之司命，~~而圣人之所以必慎者也~~。窃尝思之，凡病必有症，症者证也，有斯病必形斯候也。证必有脉，~~脉者，脏腑经络，寒热虚实所由分也~~，有与证相符者，有与证不相符者，必参验之，而后施治者也。~~察脉辨证，而方立焉~~，方者，一定不可易之名，有是病者，必主是药，非可移游彼此，用之为尝试者也。~~方之祖始于仲景，后人触类扩而充之，不可计殚，然皆不能越仲景之范围。盖前人作法，后人因焉，创始者难为方，后起者易为功，取古人已验之成规而斟酌用之，为效岂不易乎？然而执方医病，而病不能廖，甚或反以杀人者，又何以说焉？则以脉证未辨，药性未明，惑于似而反失其真，知其方而不知方之解故也。方之有解，始于成无己，无己慨仲景之书后人罕识，爰取《伤寒论》而训诂之，论症释方，使观者有所循入，诚哉仲景之功臣，而后觉之先导矣！阙后名贤辈出，谓当踵事增华，折微阐奥，使~~

古方一对方书于世，宁不愉快。夫何著方者日益多，注方者不再见，岂金针不度欤？抑工于医者未必工于方，固不能达意，遂置而不讲欤？迄明始有吴鹤皋之《医方考》，文义清疏，同人脍炙，是以梨枣再易，岂为空谷足音，故见之而易喜欤？然吴氏但一家之言，其于致远钩深或未彻尽。兹特博采广摭，网罗群书，精穷奥蕴，或同或异，各存所见，以备参稽，使探宝者不止一藏，尝鼎者不仅一脔，庶几病者观之得以印证，用者据之不致径庭，宁非卫生之一助欤。或曰：善师者不陈，得鱼者忘筌，运用之妙，在于一心，何以方为？余曰：般倕不弃规矩，师旷不废六律。夫易之为书变动不居，然亦有变易、不易二义，故曰耆之德园而神，卦之德方以智；夫卦诚方矣，岂方智之中遂无园神之妙也哉。吾愿读吾书者，取是方而园用之，斯真为得方之解也已。

康熙壬戌岁阳月休宁 切庵汪昂题于延禧堂

凡 例

一、古今方书，至为繁多。然于方前第注治某病某病，而未尝发明受病之因，及病在某经某络也；一方之中，第注用某药某药，亦未尝发明药之气味功能，入某经某络，所以能治某病之故也。方书徒设，庸医浅术，视之懵如，乃拘执死方以治活病，其不至于误世殃人者几希矣。及宋成无己始将仲景之书，先释病情，次明药性，使观者知其绪端，渐得解会，其嘉惠后人之心，可谓切至。而世代以循文训释讥之。不知仲景之书，文浅义深，至为难读，其良法奥旨，虽非成氏所能彻尽，然不读成氏之训解，又安能入仲景之门庭乎？自成氏而后，历年数百，竟未有继踵而释方书者，即如《金匱玉函》犹然晦昧，又况《千金》、《外台》以及后贤之制剂也哉。及明兴，始有吴鹤皋之《医方考》，分病列方，词旨明爽，海内盛行。兹仿成氏、吴氏遗意而扩充之，采辑古方，先详受病之由，次解用药之意，而又博采硕论名言，分别宜用忌用，惟求义朗，不厌词繁，颇竭苦心，不知有当世好否也。

一、《医方考》因病分门，病分七十门，方凡七百首。然每证不过数方，嫌于方少，一方而二三见，又觉解多；如五积散、逍遥散，皆未入选，不无阙略。兹集门分二十有一，正方三百有奇，附方之数过之，虽未足以尽医疗之目，苟能触类引伸，而医疗之大法用之亦已不穷矣。

一、本集所载，皆中正和平，诸书所共取，人世所常用之方。即间有一二厉剂，亦攻坚泻热所必需者，犹然布帛菽粟之味也。至于药味幽僻，采治艰难，及治奇证怪病者，概不选录。又方虽出自古人，而非今人所常用者，亦不选录。

一、古人立方，分两多而药味寡，譬如劲兵，专走一路，则足以破垒擒王矣。后世无前人之朗识，分两减而药味渐多，譬犹广设攻围，以庶几于一遇也。然品类太繁，攻治必杂，能无宜于此而不宜于彼者乎。兹集药过二十味以上者，概不选录。

一、仲景《伤寒论》前人印定眼目，成无己而外，鲜所发明。陶节庵虽著《伤寒六书》，参合后贤之治法，尽更仲景之方名，究未尝有片言只字发挥仲景一证一方者，又变前法，不复分经论治。仲景之书，奥渺难穷，节庵之书，显浅易读，世人奉为著蔡，故识见愈卑猥也。近世如方中行、喻嘉言、程郊倩辈，各著伤寒论辨，虽有偏驳，未能尽合经意，然间有一二新义，为从前所未发者，故多录之，不敢重古而非今也。

一、仲景伤寒诸方，为古今方书之祖，故注释尤加详悉，观者幸勿以其繁而厌之。

一、正方之后，系以附方，一则篇章省约，一则便于披寻，且以示前人用药加减之法也。

一、时丁衰晚，洞垣窥脏之技，世不再觐，而村间市井，稍能诵《药性》读《回春》者，辄尔悬壶，草菅人命，恬不为怪，古云学医人费，岂不信然。余窃悯之，故著《本草备要》一书，字笺句释，使知药品有性情，施用有宜忌。复著是集，辨证论方，使知受病有原因，治疗有轨则，庶几平居读之，要使心理开明，临病考之，不致攻补误用，脱遇庸劣之手，既可据证以校方，设处穷僻之乡，不难检方以用药，岂非卫生之善道，笥篋之要编也乎？高明之家，以为然否。

一、医书浩瀚，泛览为难，岐黄之家，尚艰博涉，文墨之士，奚暇旁通，若非篇章简要，词理通明，则智士不乐披寻，浅人复难解了，读方不得其解，治疗安所取裁，是用哀合诸家，会集众说，由博返约，用便搜求，实从前未有之书，亦医林不可不有之书也。第昂藏书既寡，见闻不多，集中采用，不满数十家，又恐注释太繁，观者易倦，其中篇章漫衍，不能尽录者，不得不稍为删节，非敢轻肆，以限于尺幅也。然出自某人某书，必仍存其名集，至于古今相沿之语，相袭之方，不知始自何人，而不可废者，皆采录之。或文法未畅者，亦僭为删润，有窃附鄙见者，必加“昂按”二字。至每方之正解，有全用昔人者，有出自心裁者，然作述相半，未敢师心自用也。

一、古人治疗，识见高明，而用意深远，其处方用药，多有非后人所易测识者（有上病下取、下病上取者，有阴病治阳、阳病治阴者，又有隔二、隔三之治者）。况余不业岐黄，又学无师授，寡见眇闻，尤称固陋，安能尽洞古人立方之本意哉？今姑就方书所载，及愚心所通晓者，采辑成书，至于古方不得其解者尚多，不敢妄加逆臆，以取罪先贤，贻误后世也。

一、《纲目》、《准绳》二书，多有采用前人而不著其名氏，不能推原所自，则以《纲目》曰、《准绳》曰三字概之。

一、集中所分门类，盖以治病之道，当治于未病，故先补养。及既受病，则有汗、吐、下三法，故次发表、涌吐、攻里。若表证未除，里证复急者，当表里交治，故次发表攻里。又有病在半表半里及在表而不宜汗，在里而不宜下者，法当和解，故次和解。然人之一身，以气血为主，故次理气、理血。若受病之因，多本于六淫，故次风、寒、暑、湿、燥、火。古云百病皆由痰起，故次除痰。若饮食不节，能致积滞，故次消导。又滑则气脱，故次收涩。虫能作病，故次杀虫。至于眼目、痈疡、妇人，各有专科，然兹集所以使用，故每科略取数方，以备采择。未附“救急良方”，以应仓卒。再附“勿药元詮”于卷终，使知谨疾摄生之要，无非欲跻斯世于仁寿而已。

一、本集虽名“方解”，然而病源脉候，脏腑经络，药性治法，罔不毕备，诚医学之全书，岐黄之捷径也。读者倘能细心玩索，自有深造逢源之妙，若厌其繁多，而倦于披阅，则作者之苦心，无以表见于世矣。

一、服药节度，有食前食后之分，古今相传，罔敢或异，愚意窃谓不然。凡人饮食入腹，皆受纳于胃中，胃气散精于脾，脾复传精于肺，肺主治节，然后分布于五脏六腑，是胃乃人身分金之炉也。未有药不入胃，而能即至于六经者也。况肺为华盖，叶皆下垂，以受饮食之薰蒸；药入胃脘，疾趋而下，安能停止；若有停留，则为哽为噎矣。未闻心药饮至心间，而即可入心，肺药饮至肺间，而即能入肺者也。若上膈之药，食后服之，胃中先为别食所填塞，须待前食化完，方能及后药，是欲速而反缓矣。且经脉在肉理之中，药方糟粕，如何能到，其到者不过气味耳。若云上膈之药，须令在上，下膈之药，须令在下，则治头之药，必须入头，治足之药，必须入足乎？此理之显明易见者。但此法相传已久，集中一仍其旧，不敢擅改，然不能无疑，附记于此，以质明者。

一、十二经络：手太阴肺；手少阴心；手厥阴心包；手太阳小肠；手少阳三焦；手阳明大肠；足太阴脾；足少阳肾；足厥阴肝；足太阳膀胱；足少阴胆；足阳明胃。附此以备查考。

目 录

补养之剂第一	(1)	补肺阿胶散	(10)
六味地黄丸	(1)	生脉散(见暑门)	(10)
七宝美髯丹	(2)	百合固金汤	(10)
还少丹	(2)	紫菀汤	(10)
黑地黄丸	(3)	秦艽扶羸汤	(11)
虎潜丸	(3)	黄芪鳖甲散	(11)
天真丸	(3)	秦艽鳖甲散	(11)
三才封髓丹	(3)	益气聪明汤	(11)
大造丸	(4)	羊肉汤	(12)
补天丸	(4)	发表之剂第二	(12)
人参固本丸	(4)	麻黄汤	(12)
参乳丸	(4)	桂枝汤	(14)
天王补心丹	(4)	大青龙汤	(15)
孔圣枕中丹	(5)	小青龙汤	(16)
大补阴丸	(5)	葛根汤	(16)
滋肾丸	(5)	麻黄附子细辛汤	(17)
斑龙丸	(5)	升麻葛根汤	(18)
龟鹿二仙膏	(6)	柴葛解肌汤	(18)
补火丸	(6)	柴胡升麻汤	(18)
唐郑相国方	(7)	九味羌活汤	(18)
二至丸	(7)	十神汤	(19)
扶桑丸	(7)	神术散	(19)
参苓白术散	(7)	葱豉汤	(20)
妙香散	(8)	人参败毒散	(20)
玉屏风散	(8)	川芎茶调散	(20)
四君子汤	(8)	再造散	(21)
四物汤(见血门)	(9)	大羌活汤	(21)
补中益气汤(见气门)	(9)	桂枝羌活汤	(21)
升阳益胃汤	(9)	涌吐之剂第三	(21)
补脾胃泻阴火升阳汤	(9)	瓜蒂散	(22)
归脾汤(见血门)	(10)	参芦散	(22)
养心汤(见血门)	(10)	栀子豉汤	(22)
人参养荣汤(见血门)	(10)	稀涎散	(23)
补肺汤	(10)	干霍乱吐方	(23)

攻里之剂第四	(2 3)	藿香正气散	(3 7)
大承气汤	(2 3)	三解汤	(3 7)
小承气汤	(2 5)	清脾饮	(3 7)
调胃承气汤	(2 5)	痛泻要方	(3 8)
桃仁承气汤(见血门)	(2 6)	黄连阿胶丸	(3 8)
大陷胸汤	(2 6)	姜茶饮	(3 8)
小陷胸汤	(2 7)	芦根汤	(3 8)
大陷胸丸	(2 7)	阴阳水	(3 9)
十枣汤	(2 7)	甘草黑豆汤	(3 9)
三物备急丸	(2 7)	理气之剂第七	(3 9)
礞砂丸	(2 7)	补中益气汤	(3 9)
木香槟榔丸	(2 8)	乌药顺气散	(4 1)
枳实导滞丸	(2 8)	苏子降气汤	(4 1)
倒仓法	(2 8)	木香顺气汤	(4 1)
蜜煎导法	(2 9)	四磨汤	(4 2)
猪胆导法	(2 9)	越鞠丸	(4 2)
表里之剂第五	(2 9)	七气汤	(4 2)
大柴胡汤	(2 9)	四七汤	(4 2)
柴胡加芒硝汤	(2 9)	代赭旋覆汤	(4 3)
桂枝加大黄汤	(3 0)	丁香柿蒂汤	(4 3)
水解散	(3 0)	橘皮竹茹汤	(4 3)
防风通圣散	(3 0)	定喘汤	(4 3)
葛根黄连黄芩汤	(3 0)	理血之剂第八	(4 4)
三黄石膏汤	(3 1)	四物汤	(4 4)
五积散	(3 1)	当归补血汤	(4 5)
麻黄白术汤	(3 1)	归脾汤	(4 6)
参苏饮	(3 2)	养心汤	(4 6)
香苏饮	(3 2)	人参养荣汤	(4 6)
茵陈丸	(3 2)	龙脑鸡苏丸	(4 6)
和解之剂第六	(3 2)	咳血方	(4 7)
小柴胡汤	(3 2)	独圣散	(4 7)
黄连汤	(3 4)	清咽太平丸	(4 7)
黄芩汤	(3 5)	還元水	(4 7)
芍药甘草汤	(3 5)	麻黄人参芍药汤	(4 7)
栝楼薤白白酒汤	(3 5)	犀角地黄汤	(4 8)
温胆汤	(3 6)	桃仁承气汤	(4 8)
逍遥散	(3 6)	抵当汤	(4 9)
六和汤	(3 7)	槐花散	(4 9)

秦艽白术丸	(5 0)	小建中汤	(6 2)
芍药汤	(5 0)	白术附子汤	(6 3)
苍术地榆汤	(5 0)	益元汤	(6 3)
小蓟饮子	(5 0)	回阳救急汤	(6 4)
复元羌活汤	(5 1)	四神丸	(6 4)
祛风之剂第九	(5 1)	感应丸	(6 4)
小续命汤	(5 1)	导气汤	(6 4)
侯氏黑散	(5 2)	天台乌药散	(6 5)
大秦艽汤	(5 2)	疝气方	(6 5)
三生饮	(5 3)	橘核丸	(6 5)
地黄饮子	(5 3)	清暑之剂第十一	(6 5)
顺风匀气散	(5 3)	四味香薷饮	(6 5)
稀莖丸	(5 4)	清暑益气汤	(6 6)
牵正散	(5 4)	生脉散	(6 7)
如圣饮	(5 4)	六一散	(6 7)
独活汤	(5 4)	缩脾饮	(6 7)
活络丹	(5 5)	消暑丸	(6 7)
消风散	(5 5)	大顺散	(6 8)
清空膏	(5 5)	五苓散(见利湿门)	(6 8)
胃风汤	(5 5)	人参白虎汤(见泻火门)	(6 8)
上中下通用痛风丸	(5 6)	竹叶石膏汤(见泻火门)	(6 8)
史国公药酒方	(5 6)	利湿之剂第十二	(6 8)
蠲痹汤	(5 6)	五苓散	(6 8)
三痹汤	(5 6)	猪苓汤	(6 9)
独活寄生汤	(5 7)	茯苓甘草汤	(7 0)
沉香天麻丸	(5 7)	小半夏加茯苓汤	(7 0)
通顶散	(5 7)	加味肾气丸	(7 0)
乌梅擦牙关方	(5 7)	越婢汤	(7 1)
祛寒之剂第十	(5 7)	防己黄芪汤	(7 1)
理中汤	(5 8)	肾著汤	(7 2)
四逆汤	(5 8)	舟车丸	(7 2)
当归四逆汤	(6 0)	疏凿饮子	(7 2)
四逆散	(6 0)	实脾饮	(7 3)
真武汤	(6 0)	五皮饮	(7 3)
白通加人尿猪胆汁汤	(6 1)	麦门冬汤	(7 3)
吴茱萸汤	(6 1)	羌活胜湿汤	(7 3)
大建中汤	(6 2)	中满分消丸	(7 4)
十四味建中汤	(6 2)	中满分消汤	(7 4)

大橘皮汤	(7 4)	左金丸	(8 6)
茵陈蒿汤	(7 4)	泻青丸	(8 6)
八正散	(7 5)	泻黄散	(8 7)
葶藶分清饮	(7 5)	清胃散	(8 7)
琥珀散	(7 5)	甘露饮	(8 8)
防己饮	(7 6)	泻白散	(8 8)
当归拈痛汤	(7 6)	导赤散	(8 8)
禹功散	(7 6)	莲子清心饮	(8 8)
升阳除湿防风汤	(7 6)	导赤各半汤	(8 9)
润燥之剂第十三	(7 7)	普济消毒饮	(8 9)
琼玉膏	(7 7)	清震汤	(8 9)
炙甘草汤	(7 7)	紫雪	(8 9)
麦门冬汤	(7 7)	人参清肌散	(9 0)
活血润燥生津汤	(7 8)	白术除湿汤	(9 0)
清燥汤	(7 8)	清骨散	(9 0)
滋燥养荣汤	(7 8)	石膏散	(9 0)
搜风顺气丸	(7 8)	二母散	(9 0)
润肠丸	(7 9)	利膈汤	(9 1)
通幽汤	(7 9)	甘桔汤	(9 1)
韭汁牛乳饮	(7 9)	元参升麻汤	(9 3)
黄芪汤	(7 9)	消斑青黛饮	(9 3)
消渴方	(8 0)	玉屑无忧散	(9 3)
地黄饮子	(8 0)	香连丸	(9 3)
白茯苓丸	(8 0)	白头翁汤	(9 3)
桑白皮等汁十味煎	(8 0)	肾热汤	(9 3)
治久嗽方	(8 1)	辛夷散	(9 3)
猪膏酒	(8 1)	苍耳散	(9 3)
麻仁苏子粥	(8 1)	除痰之剂第十五	(9 4)
泻火之剂第十四	(8 1)	二陈汤	(9 4)
黄连解毒汤	(8 1)	润下丸	(9 4)
附子泻心汤	(8 2)	桂苓甘术汤	(9 5)
半夏泻心汤	(8 3)	清气化痰丸	(9 5)
白虎汤	(8 3)	顺气消食化痰丸	(9 5)
竹叶石膏汤	(8 4)	清肺饮	(9 5)
升阳散火汤	(8 4)	金沸草散	(9 6)
凉膈散	(8 5)	百花膏	(9 6)
当归龙荟丸	(8 5)	三仙丹	(9 6)
龙胆泻肝汤	(8 5)	半夏天麻白术汤	(9 6)

茯苓丸	(97)	雄槟丸	(106)
控涎丹	(97)	化虫丸	(106)
三子养亲汤	(97)	使君子丸	(107)
涤痰汤	(97)	獭肝丸	(107)
礞石滚痰丸	(98)	消渴杀虫方	(107)
牛黄丸	(98)	明目之剂第十九	(107)
辰砂散	(98)	滋阴地黄丸	(107)
白金丸	(98)	加减驻景丸	(108)
青州白丸子	(99)	定志丸	(108)
星香散	(99)	地芝丸	(108)
常山饮	(99)	人参益胃汤	(108)
截疟七宝饮	(99)	消风养血汤	(108)
消导之剂第十六	(100)	洗肝散	(109)
平胃散	(100)	补肝散	(109)
枳术丸	(100)	拨云退翳丸	(109)
保和丸	(101)	石膏羌活散	(109)
健脾丸	(101)	防风饮子	(109)
枳实消痞丸	(101)	羊肝丸	(109)
痞气丸	(102)	兔矢汤	(110)
葛花解醒汤	(102)	二百味草花膏	(110)
鳖甲饮	(102)	点眼方	(110)
收涩之剂第十七	(103)	百点膏	(110)
赤石脂禹余粮汤	(103)	圆明膏	(110)
桃花汤	(103)	飞丝芒尘入目方	(111)
诃子散	(103)	痛疡之剂第二十	(111)
真人养脏汤	(104)	真人活命饮	(111)
当归六黄汤	(104)	金银花酒	(111)
牡蛎散	(104)	蜡矾丸	(111)
柏子仁丸	(104)	托里散	(112)
茯菟丹	(105)	救苦胜灵丹	(112)
治浊固本丸	(105)	散肿溃坚汤	(112)
水陆二仙丹	(105)	飞龙夺命丹	(112)
金锁固精丸	(105)	雄黄解毒丸	(113)
人参栲皮散	(105)	皂角丸	(113)
桑螺蛸散	(106)	托里十补散	(113)
杀虫之剂第十八	(106)	托里黄芪汤	(113)
乌梅丸	(106)	托里温中汤	(114)
集效丸	(106)	止痛当归汤	(114)

生肌散	(114)	缢死	(122)
灸法	(114)	溺死	(122)
芙蓉外敷法	(114)	魔死	(122)
经产之剂第二十一	(114)	中毒	(122)
表实六合汤	(114)	服铅粉	(122)
胶艾汤	(115)	蛇虫犬咬伤	(122)
钩藤汤	(116)	汤泡伤	(122)
羚羊角散	(116)	刀斧伤	(122)
紫苏饮	(116)	骨哽	(122)
天仙藤散	(116)	误吞铜铁金银	(123)
白术散	(116)	吞发绕喉不出	(123)
竹叶汤	(116)	颊车开不能合	(123)
紫菀汤	(117)	呃逆不止	(123)
安荣散	(117)	舌胀满口	(123)
参术饮	(117)	乳蛾喉痹	(123)
黑神散	(117)	霍乱绞肠痧	(123)
失笑散	(117)	鼻衄不止	(123)
清魂散	(118)	虫入耳中	(123)
返魂丹	(118)	跌打损伤	(123)
当归羊肉汤	(118)	产妇血晕	(123)
当归散	(118)	产后子肠不收	(123)
启宫丸	(118)	勿药元论第二十三	(123)
达生散	(118)	上古天真论	(123)
猪蹄汤	(119)	调息	(123)
人参荆芥散	(119)	调息之法	(124)
柏子仁丸	(119)	苏子瞻养生颂	(124)
芎归六君子汤	(119)	小周天	(124)
连附四物汤	(120)	道经六字诀	(124)
固经丸	(120)	一秤金诀	(125)
升阳举经汤	(120)	金丹秘诀	(125)
如圣散	(120)	李东垣论	(125)
牡丹皮散	(120)	精气神	(125)
正气天香散	(120)	十六事宜	(125)
抑气散	(121)	诸伤	(125)
固下丸	(121)	风寒伤	(125)
当归煎丸	(121)	湿伤	(125)
白芷散	(121)	饮食伤	(125)
救急良方第二十二	(121)	色欲伤	(125)
暴死	(121)		

补养之剂第一

补者，补其所不足也；养者，栽培之、将护之，使得生遂条达，而不受戕贼之患也。人之气禀，罕得其平，有偏于阳而阴不足者，有偏于阴而阳不足者，故必假药以资助之。而又须优游安舒，假之岁月，使气血归于和平，乃能形神俱茂，而疾灾不生也。经曰：圣人不治已病治未病，不治已乱治未乱。夫病已成而后药之，乱已成而后治之，譬犹渴而穿井，斗而铸兵，不亦晚乎？故先补养。然补养非旦夕可效，故以丸剂居前，汤剂居后。

六味地黄丸 补真阴，除百病。钱氏仲阳因仲景八味丸减去桂附，以治小儿。以小儿纯阳，故减附桂。今用通治大小证。

治肝肾不足，真阴亏损，精血枯竭，憔悴羸弱，腰痛足酸，自汗盗汗，水泛为痰，仲景曰：气虚有痰，宜肾气丸补而逐之。丹溪曰：久病阴火上升，津液生痰不生血，宜补血以制相火，其痰自除，发热咳嗽肾虚则移热于肺而咳嗽。按之至骨，其热烙手，骨困不任，为肾热，头晕目眩，《直指方》云：淫欲过度，肾气不能归元，此气虚头晕也；吐衄崩漏，脾不摄血，致血妄行，此血虚头晕也；耳鸣耳聋，遗精，便血，消渴，淋沥，失血，失音，舌燥喉痛，虚火牙痛，足跟作痛，下部疮疡等证。诸证皆由肾水不足、虚火上炎所致。详注分见各门。

地黄（砂仁、酒拌，九蒸九晒。）八两，山茱肉（酒润）、山药四两，茯苓（乳拌）、丹皮、泽泻三两。蜜丸。空心，盐汤下；冬、酒下。钱氏加减法：血虚阴衰，熟地为君；精滑头昏，山茱为君；小便或多或少、或赤或白，茯苓为君；小便淋沥，泽泻为君；心虚火盛及有瘀血，丹皮为君；脾胃虚弱，皮肤干涩，山药为君。言为君者，其分用八两，地黄只用臣分两。

此足少阴、厥阴药也。熟地滋阴补肾，生血生精；山茱温肝逐风，涩精秘气；牡丹泻君相之伏火，凉血退蒸；李时珍曰：伏火，即阴火也，阴火，即相火也，世人专以黄柏治相火，不知丹皮之功更胜也。丹者，南方火色，牡而非牝，属阳，故能入肾，泻阴火，退无汗之骨蒸；山药清虚热于肺脾，补脾固肾能涩精；茯苓渗脾中湿热，而通肾交心；泽泻泻膀胱水邪，而聪耳明目解见后注。六经备治，而专攻肾肝；寒

燥不偏，而补兼气血；苟能常服，其功未易殚述也。或谓肾气丸为补水之剂，以熟地大补精血故也，不知精血足则真阳自生，况山药、茱萸皆能涩精固气，气者，火也，水中之火，乃为真阳。此剂水火兼补、不寒不燥，至平淡，至神奇也。或曰肾气丸实补肝药也，肾为肝母，亦虚则补母之义，古云，肝肾之病，同一治也。昂按：“肾气丸”：熟地温而丹皮凉，山药涩而茯苓渗，山茱收而泽泻泻，补肾而兼补脾，有补而必有泻，相和相济，以成平补之功，乃平淡之神奇，所以为古今不易之良方也。茯苓、山药皆脾经药，脾喜燥，肾恶燥，故兼补为难。即有加减，不过一二味，极三四味而止，今人多拣本草补药，任意加入，有补无泻，且客倍于主，责成不专，而六味之功反退处于虚位，失制方之本旨矣，此后世庸师之误也。李士材曰：用此方者有四失：地黄非怀庆则力薄，蒸晒非九次则不熟，或疑地黄之滞而减之，则君主弱，或恶泽泻之泻而减之，则使力微，顾归咎于药之无功，毋乃愚乎？按：泽泻《本经》云聪耳明目，为其能渗下焦之湿热也，湿热既除，则清气上行，故能养五脏、起阴气、补虚损、止头旋、有聪耳明目之功，是以古方用之。今人多以昏目疑之，盖服之太多，则肾水过利而目昏，若古方配合，多寡适宜，未易增减也。

本方煎服，名六味地黄汤：治同。赵养葵作《医贯》，专用此汤大剂治病，且云：即以伤寒口渴言之，邪热入于胃府，消耗津液，故渴，恐胃汁干，急下之以存津液。其次者，但云欲饮水者，不可不与，不可多与，别无治法。纵有治者，徒知以芩、连、梔、柏、麦冬、五味、花粉，甚则石膏、知母，此皆有形之水，以沃无形之火，安能滋肾中之真阴乎？若以六味地黄大剂服之，其渴立愈，何至传至少阴而成燥实坚之症乎。少阴疑是太阴。昂按：以地黄汤治伤寒，亦赵氏之创见也。本方加附子、肉桂各一两，名桂附八味丸崔氏：治相火不足，虚羸少气，王冰所谓益火之原，以消阴翳也，尺脉弱者宜之。李士材曰：肾有两枚，皆属于水，初无水火之别。仙经曰：两肾一般无二样，中间一点是阳精。两肾中间，穴名命门，相火所居也。一阳生于二阴之间，所以成乎坎而位于北也。李时珍曰：命门为藏精系胞之物，其体非脂非肉，白膜裹之，在脊骨第七节两肾中央，系著于脊，下通二肾，上通心肺贯脑，为生命之原，相火之主，精气之府，人物皆有之，生人生物，皆由此出，《内经》所谓七节之旁中有小心是也。以相火能代心君行事，故曰小心。昂按：男女媾精，皆禀此命火以结胎，人之穷通寿夭，皆根于此，乃先于无形之火，所以主云为而应万事，蒸糟粕而化精微者也。无此真阳之火，则神机灭息，生气消亡矣。惟附子、肉桂，能入肾命之间而补之，故加入六味丸中，为补火之剂。有肾虚火不归经，大热烦渴，目赤唇裂，舌上生刺，喉如烟火，足心如烙，脉洪大无伦，按之微弱者，宜十全大补汤吞八味丸。或问燥热如此，复投附桂，不以火济火乎？曰：心包相火附于命门，男以藏精，女以系胞，因嗜欲竭之，火无所附，故厥而上炎；且火从肾出，是水中之火也，火可以水折，水中之火不可

以水折，桂附与火同气而味辛，能开腠理、致津液，通气道，据其窟宅而招之，同气相求，火必下降矣，然则桂附者，固治相火之正药欤？八味丸用泽泻，寇宗奭谓其接引桂附，归就肾经，李时珍曰：非接引也，茯苓、泽泻，皆取其泻膀胱之邪气也。古人用补药必兼泻邪，邪去则补药得力，一阖一辟，此乃玄妙，后世不知此理，专一于补，必致偏胜之害矣。张仲景用此丸治汉武帝消渴^①，喻嘉言曰：下消之证，饮水一斗，小便亦一斗，故用此以折其水，使不顺趋。夫肾水下趋则消，肾水不上则渴，舍此安从治哉？《金匱》又用此方治脚气上入少腹不仁；又治妇人转胞，小便不通；更其名曰肾气丸，盖取收摄肾气归元之义也。本方加黄柏、知母各二两，名知柏八味丸，治阴虚火动，骨痿髓枯，王冰所谓壮水之主，以制阳光也，尺脉旺者宜之。此以补天一所生之水也。朱丹溪曰：君火者，心火也，人火也，可以水灭，可以直折，黄连之属可以制之；相火者，天火也，龙雷之火也，阴火也，不可以水湿折之，当从其类而伏之，惟黄柏之属可以降之。按：知柏八味丸与桂附八味丸寒热相反，而服之者皆能有功，缘人之气禀不同，故补阴补阳，各有攸当，药者，原为补偏救弊而设也。《医贯》曰：左尺脉虚细数者，是肾之真阴不足，宜六味丸以补阴，右尺脉沉细数者，是命之相火不足，宜八味丸以补阳；至于两尺微弱，是阴阳俱虚，宜十补丸；此皆滋先天化源；世之补阴者率用知柏反戕脾胃，多致不起，不能无憾，故特表而出之。又曰：王节斋云：凡酒色过度，损伤肺肾真阴者，不可过服参芪，服多者死，盖恐阳旺而阴消也。自此说行而世之治阴虚咳嗽者，视参芪如砒鸩，以知柏为灵丹，使患此证者，百无一生，良可悲也。盖病起于房劳，真阴亏损，阴虚火上故咳，当先以六味丸之类补其真阴，使水升火降，随以参芪救肺之品，补肾之母，使金水相生，则病易愈矣。世之用寒凉者，固不足齿，间有知用参芪者，不知先壮水以制火，而遂投参芪以补阳，反使阳火旺而金益受伤，此不知后先之著者也。本方加桂一两，名七味地黄丸；引无根之火降而归元。本方加五味三两，名都气丸；治劳嗽。益肺之源以生肾水。再加桂，亦治消渴。本方加五味二两、麦冬三两，名八仙长寿丸，再加紫河车一具；并治虚损劳热。河车名混沌皮，本人之血气所生，故能大补气血。本方加杜仲（姜炒）、牛膝（酒洗）各二两，治肾虚腰膝酸痛。本方去泽泻，加益智仁三两（盐、酒炒），治小便频数。益智辛热，涩精固气。本方用熟地二两，山药、山茱、丹皮、归尾、五味、柴胡各五钱，茯神、泽泻各二钱半，蜜丸、朱砂为衣，名益阴肾气丸即明目地黄丸，东垣^②，治肾虚目昏加柴胡者，所以升阳于上也。附桂八味丸加车前、牛膝，名肾气丸《金匱》^③，治虚胀别见湿门。

七宝美髯丹 补肝肾。邵应节

治气血不足，羸弱周痹，肾虚无子，消渴，淋漓，遗精，崩带，痈疮，痔肿等证。周痹，周身痠痹也，由气血不足。无子，由肾冷精衰。消渴、淋漓，由水不制火。遗精，由心肾不交。崩带、疮痔，由营血不调。

何首乌（大者，赤白各一斤，去皮，切片黑豆拌九蒸九晒）、白茯苓（乳拌）、牛膝（酒浸，同首乌第七次蒸至第九次）、当归（酒洗）、枸杞（酒浸）、菟丝子（酒浸、蒸）各半斤，破故纸（黑芝麻拌炒）四两（净）。蜜丸。盐汤或酒下。并忌铁器。

此足少阴、厥阴药也。何首乌涩精固气，补肝坚肾，为君；茯苓交心肾而渗脾湿；牛膝强筋骨而益下焦；当归辛温以养血；枸杞甘寒而补水；菟丝子益三阴而强卫气；补骨脂助命火而暖丹田；此皆固本之药，使荣卫调适，水火相交，则气血太和，而诸疾自已也。何首乌流传虽久，服者尚寡，明嘉靖间，方士邵应节进此方，世宗服之，连生皇子，遂盛行于世。昂按：地黄、何首乌皆君药也，故六味丸以地黄为君，七宝丹以何首乌为君，各有配合，未可同类而共施也。即有加减，当各依本方随病而施损益。今人多以何首乌加入地黄丸中，合两方为一方，是一药二君，安所适从乎？失制方之本旨矣。

还少丹 阴阳平补。杨氏

治脾肾虚寒，血气羸乏，不思饮食，发热盗汗，遗精白浊，肌体瘦弱，牙齿浮痛等证。肾为先天之根本，脾为后天之根本，二本有伤，则见上项诸证，故未老而先衰，二本既固，则老可还少矣。

熟地黄二两，山药、牛膝（酒浸）、枸杞（酒浸）两半，山茱肉、茯苓（乳拌）、杜仲（姜汁炒断丝）、远志（去心）、五味子（炒）、楮实（酒蒸）、小茴香（炒）、巴戟天（酒浸）、肉苁蓉（酒浸）一两，石菖蒲五钱。加枣肉，蜜丸。盐汤或酒下。

一方茯苓换茯神，加川续断，名打老儿丸。

妇人年过百岁，打其老儿子不肯服此丸。

此手足少阴、足太阴药也。两肾中间有命

① 此说显误，汉武帝为西汉时期人，而张仲景为东汉末年人，不可能治汉武帝病。

② 本方出自东垣《兰室秘藏》，方中还有生地五钱。

③ 显误。《金匱》肾气丸乃桂附八味丸，加车前、牛膝，出自《济生方》，原名加味肾气丸，现通称《济生》肾气丸。

火，乃先天之真阳，人之日用云为皆此火也。此火衰微，则无以薰蒸脾胃饮食减少，而精气日衰矣。苁蓉、巴戟能入肾经血分，茴香能入肾经气分，同补命门相火之不足，火旺则土强，而脾能健运矣；熟地、枸杞补水之药，水足则有以济火，而不亢不害矣；杜仲、牛膝补腰膝以助肾；茯苓、山药渗湿热以助脾；山茱、五味生肺液而固精；远志、菖蒲通心气以交肾，遗精白浊，由于心肾不交；大枣补气益血，润肺强脾；楮实助阳补虚，充肌壮骨。此水火平调，脾胃交补之剂也。

丹溪去楮实，更名滋阴大补丸。此阴阳平补之剂，而曰滋阴者，肾为阴脏也。

黑地黄丸 健脾补肾

治脾肾两不足，房室虚损，形瘦无力，面色青黄。此脾肾两伤之证。亦治血虚久痔，气不摄血则妄行，湿热下流则成痔。洁古曰：此治血虚久痔之圣药。

苍术（油浸）、熟地黄一斤，五味子半斤，干姜春冬一两，秋七钱，夏五钱。枣肉丸。米饮或酒下。

此足太阴、少阴药也。喻嘉言曰：此方以苍术为君，地黄为臣，五味子为佐，干姜为使，治脾肾两脏之虚，而去脾湿、除肾燥，两擅其长，超超元著，视后人之脾肾双补，药味庞杂者，相去不已远耶。

虎潜丸 补阴

治精血不足，筋骨痿弱，足不任地，及骨蒸劳热。肝主筋，血不足则筋痿；肾主骨，精不足则骨痿，故步履为艰也。人之一身，阳常有余，阴常不足，骨蒸劳热，本乎阴虚。

黄柏（盐、酒炒）、知母（盐、酒炒）、熟地黄三两，虎胫骨（酥炙）一两，龟板（酥炙）四两，琐阳（酒润）、当归（酒洗）两半，牛膝（酒煮）、白芍（酒炒）、陈皮（盐水润）二两。羯羊肉酒煮烂，捣丸。盐汤下。冬加干姜一两。丹溪加干姜、白术、茯苓、甘草、五味、菟丝、紫河车，名补益丸；治痿。一方加龙骨，名龙虎济阴丹；治遗泄。

此足少阴药也。黄柏、知母、熟地，所以壮肾水而滋阴；当归、芍药、牛膝，所以补肝虚而养血；牛膝又能引诸药下行，以壮筋骨，盖肝肾同一治也；龟得阴气最厚，故以补阴而为

君；虎得阴气最强，故以健骨而为佐，用胫骨者，虎虽死犹立不仆，其气力皆在前胫，故用以入足，从其类也；琐阳益精壮阳，养筋润燥；然数者皆血药，故又加陈皮以利气，加干姜以通阳；羊肉甘热，属火而大补，亦以味补精，以形补形之义，使气血交通，阴阳相济也。名虎潜者，虎，阴类，潜藏也。一名补阴丸，盖补阴所以称阳也。称，去声。凡阳胜者不必泻阳，只补其阴以配阳，使水火均平，自无偏胜之患矣。

天真丸 补气血

治一切亡血过多，形槁肢羸，饮食不进，肠胃滑泄，津液枯竭。久服生血益气，暖胃驻颜。

精羊肉七斤（去筋膜脂皮，批开入下药末），肉苁蓉、山药（湿者）十两，当归十二两（酒洗），天冬（去心）一斤。为末，安羊肉内，缚定，用无灰酒四瓶，煮令酒干，入水二斗，煮烂，再入后药：黄芪五两，人参三两，白术二两。为末，糯米饭作饼，焙干，和丸。温酒下。如难丸，用蒸饼杵丸。

此手足太阴药也。喻嘉言曰：此方可谓长于用补矣。人参、羊肉同功，十剂曰：补可去弱，人参、羊肉之属是也。人参补气，羊肉补形，而苁蓉、山药为男子之佳珍，合之当归养荣，黄芪益卫，天冬保肺，白术健脾，而其制法尤精，允为补方之首。

三才封髓丹 补脾肺肾。（拔萃）

降心火，益肾水，滋阴养血，润而不燥。

天门冬、熟地黄二两，人参一两，黄柏（酒炒）三两，砂仁两半，甘草（炙）七钱半，面糊丸。用苁蓉五钱，切片，酒一大盏，浸一宿，次日煎汤送下。

此手足太阴、足少阴药也。天冬以补肺生水，人参以补脾益气，熟地以补肾滋阴，以药有天地人之名，而补亦在上中下之分，使天地位育，参赞居中，故曰三才也。喻嘉言曰：加黄柏以入肾滋阴，砂仁以入脾行滞，甘草以少变天冬、黄柏之苦，俾合人参健立中气，以伸参两之权，殊非好为增益成方之比也。

本方除后三味，等分煎，名三才汤；治脾肺虚劳咳嗽。本方除前三味，名凤髓丹（治要），治心火旺盛，肾精不固，易于施泄。

大造丸 肺肾虚损。吴球

治虚损劳伤，咳嗽潮热。虚损：一损肺，皮槁毛落；二损心，血液衰少；三损脾，饮食不为肌肤；四损肝，筋缓不自收持；五损肾，骨痿不起于床。五劳者：志劳，思劳，心劳，忧劳，疲劳也。七伤者：大饱伤脾，大怒伤肝，强力举重，久坐湿地伤肾，形寒饮冷伤肺，忧愁思虑伤心，风雨寒暑伤形，大恐不节伤志也。肺为气所出入之道，内有所伤，五脏之邪上逆于肺则咳嗽；潮热者，如潮水之有期，昼热夜静者为阳盛，昼静夜热者为阴虚。《难经》云：损其肺者益其气，损其心者调其荣，损其脾者调其饮食，损其肝者缓其中，损其肾者益其精。

紫河车一具，败龟板二两（童便浸三日，酥炙黄），黄柏（盐酒炒）、杜仲（酥炙）两半，牛膝（酒浸）、天冬（去心）、麦冬（去心）、人参一两，地黄二两（茯苓、砂仁六钱同煮，去之）。夏加五味子、酒、米糊丸，盐汤下；冬酒下。女人去龟板，加当归，乳煮糊丸。

此手太阴、足少阴药也。河车本血气所生，大补气血，为君；败龟板得阴气最全，黄柏禀阴气最厚，滋阴补水，为臣；杜仲润肾补腰（腰者，肾之府）；牛膝强筋壮骨；地黄养阴退热，制以茯苓、砂仁，入少阴而益肾精；二冬降火清金，合之人参、五味，能生脉而补肺气。大要以金水为生化之源，合补之以成大造之功也。

补天丸 肾损。丹溪①

治气血衰弱，六脉细数，虚劳之证。

紫河车一具，黄柏（酒炒）、龟板（酥炙）三两，杜仲（姜汁炒）、牛膝（酒浸）二两，陈皮一两。冬加干姜五钱，夏加炒五味子一两。酒糊为丸。此即前方加陈皮而除肺家药。

此足少阴药也。黄柏、龟板滋肾之药，杜仲、牛膝腰膝之药，皆以补肾而强阴也；河车名曰混沌皮，用气血以补气血，假后天以济先天，故曰补天；加陈皮者，于补血之中而兼调其气也。冬月寒水用事，故加干姜以助阳；夏月火旺烁金，故加五味以保肺。

人参固本丸 肺劳

治肺劳虚热。肺主气，气者，人身之根本也。肺气既虚，火又克之，则成肺劳而发热，有咳嗽、咯血、肺痿诸证也。

人参二两，天冬（炒）、麦冬（炒）、生地黄、熟地黄四两。蜜丸。

此手太阴、足少阴药也。肺主气，而气根于丹田肾部，故肺肾为子母之脏，必水能制火而后火不刑金也。二冬清肺热，二地益肾水，人参大补元气，气者，水之母也，且人参之用，无所不宜，以气药引之则补阳，以血药引之亦补阴也。

参乳丸 气血交补

大补气血。

人参末、人乳粉，等分。蜜丸。炖乳取粉法：取无病年少妇人乳，用银瓢或锡瓢，倾乳少许，浮滚水上炖，再浮冷水上立干，刮取粉用，如摊粉皮法。按：人乳乃阴血所化，服之润燥降火、益血补虚，所谓以人补人也。然能湿脾、滑肠、腻膈，久服亦有不相宜者，惟制为粉，则有益无损。须用一妇人之乳为佳，乳杂则其气杂。又须旋用，经久则油腥。旋，去声。

此手足太阴、足厥阴药也。人参大补元气，人乳本血液化成，用之以交补气血，实平淡之神奇也。

天王补心丹 补心。终南宣律师课诵劳心，梦天王授以此方，故名

治思虑过度，心血不足，怔忡健忘，心口多汗，大便或秘或溏，口舌生疮等证。心也者，君主之官也，神明出焉。思虑过度，耗其心血，则神明伤而成心劳，故怔忡健忘也；汗者心之液，心烦热故多汗；心主血，血不足故大便燥而秘；或时溏者，心火不能生脾土也；舌者心之苗，虚火上炎，故口舌生疮；怔忡者，心惕惕然动不自安也。丹溪曰：怔忡大概属血虚与痰。经曰：血并于下，气并于上，乱而善忘。又曰：盛怒伤志，志伤善忘。又曰：静则神藏，躁则消亡。人不耐于事物之搅扰，其血气之阴者将竭，故失其清明之体而善忘也。夫药固有安心养血之功，不若宁神静虑，返观内守为尤胜也。

生地四两（酒洗），人参、玄参（炒）、丹参（炒）、茯苓（一用茯神）、桔梗、远志（炒）五钱，酸枣仁（炒）、柏子仁（炒、研去油）、天冬（炒）、麦冬（炒）、当归（酒洗）、五味子（炒）一两。蜜丸，弹子大，朱砂为衣。临卧、灯心汤下一丸，或噙含化。一方有石菖蒲四钱，菖蒲辛香，开心除痰，无五味子。一方有甘草。

此手少阴药也。生地、玄参北方之药，补水所以制火，取既济之义也；丹参、当归所以

① 见于《丹溪心法》，但原方中有干姜，无杜仲。